

## 2 (1) 基礎的研修の内容を踏まえた J C 養成研修の在り方について

- 基礎的研修の内容を踏まえ、J C 養成研修の位置付けをどのように考えるか。
- 上記のような位置付けの研修とするには、カリキュラムにどのような内容を盛り込むべきか。

狭義の J C 支援及び基礎的研修の内容、本作業部会での議論を踏まえ、J C 養成研修の位置付け及びカリキュラムについて、次のように整理してはどうか。

### 〔第 2 回本作業部会における基礎的研修との関係に係る意見〕

- 精神・発達障害者と企業との間で、職場での本人の状況の認識に乖離がある。訪問型 J C は面談という手法を使って、合意形成の場を作るという調整が増えている。養成研修に問題解決技法が入っていないので、技術研修に入れてはどうか。
- 基礎的研修に移行した科目について、養成研修で取り扱わなくていいのかについて議論が必要。質的に同じ領域でも、もう少し深めておくことが必要なのかという視点も持つ必要がある。
- 基礎的研修は、かなり限られた時間で構成されているので、基礎的研修で本当にゼロステップの方に何を伝えて、さらに養成研修で何を伝えていかなければならないかを考えたい。
- 基礎的研修のシラバス案をベースに養成研修の在り方を検討する際、上級研修やサポート研修など、全体の研修の構造を階層化したイメージを持った方がよい。
- 基礎的研修に科目の短縮版が移るとしても、養成研修の中でも何らかの補足、補完が必要ではないか。
- 企業で働くことが限界となったときに、再度、地域につなげていくという視点を盛り込めるとよい。地域につなげていくことも専門的資質の一つだという認識が持てると、方向性が一つだけでなく、多様な支援の道が開ける。
- カリキュラムを考える上で、コーディネートや連絡調整について、職場内という範囲と地域という範囲の両方で言われており、現場的・具体的にどんな科目でどのように設定すればいいか。



## 2 (1) 基礎的研修の内容を踏まえた J C 養成研修の在り方について

- 基礎的研修の内容を踏まえ、J C 養成研修の位置付けをどのように考えるか。
- 上記のような位置付けの研修とするには、カリキュラムにどのような内容を盛り込むべきか。

狭義の J C 支援及び基礎的研修の内容、本作業部会での議論を踏まえ、J C 養成研修の位置付け及びカリキュラムについて、次のように整理してはどうか。

### 〔 J C 養成研修の見直しの方向性の検討 〕

- 基礎的研修と重複する科目・内容について、削除すべきものはあるか。また、残すべき科目について、基礎的研修の内容を踏まえ、現在の水準からどのように調整するか。
- 総研修時間について、現行の 42 時間以上（モデルカリキュラムから 38 時間以上）から変更する必要はあるか。
- 本作業部会における狭義の J C 支援に係る議論を踏まえ、次の点について追加・変更を検討してはどうか。

### 〔 追加・変更点（案） 〕

- ③職場適応援助者の役割（講義）の内容に「職場適応援助者助成金の概要・申請手続」を追加してはどうか。
- ⑥職場における雇用管理（講義）の内容に「障害者雇用の経験が少ない企業への支援に関する留意点」を追加してはどうか。
- ⑦企業文化の理解（講義：訪問型のみ）に追加すべき内容はあるか。
- ⑬地域における関係機関の役割とネットワークの活用（講義）の内容に関係機関のコーディネートに関する内容や地域につなげるための支援を追加する場合、どのような内容にするか。
- 新設科目（講義・演習）として「面談による問題解決技法」を追加する場合、どのような内容にするか。